

Rによる統計分析(作業スペース、履歴の保存)

1. 作業スペースの保存

ファイルをクリックすると「作業スペースの保存」という項目がある。これは例えば、R にいろいろなデータを読みこんだ場合などに、次回以降も使うデータがたくさん場合など、また読み込むのは手間がかかる場合に、読み込んだデータ等を保存しておくためのものである。読み込んだデータだけではなく、いろいろな変数を定義した場合も、それらを残しておく事ができる。例えば

```
> A=1
> B=1
> C=A+B
> D=C^2+A^2
> C
[1] 2
> D
[1] 5
```

などのように4つの変数、A, B, C, Dを定義したとする。これらを作業スペースに保存せずにRを終了すると、再びRを起動したときにこれらのデータはRに残っていない。しかし作業スペースを保存し、それを読み込めば、これらの変数を再び定義しなくても、Rに読み込ませることができる。

現在どのような変数やデータが読み込まれているかを見るにはls()と打ち込めばよい。すると

```
> ls()
[1] "A" "B" "C" "D"
```

のように、どのような変数が定義されていることがわかる。

これらのデータを作業スペースとして保存するためには「ファイル」→「作業スペースの保存」とクリックする。すると拡張子が“.RData”というファイルを保存する画面になるので、適当に名前を付けて(ここでは test.RData とする)保存する。

2. 履歴の保存

さきほどは読み込んだデータを保存したが、同様に以前打ち込んだコマンドを保存したい場合もある。そのような場合は「ファイル」→「履歴の保存」“.Rhistory”というファイルを保存する画面になるので、適当に名前を付けて(ここでは test.Rhistory とする)保存する。

3. 作業スペース、履歴の読み込み

「ファイル」→「作業スペースの読み込み…」で先ほど保存したファイルを開けば、先ほど使用したデータを再び定義や読み込みをする必要なく使用できる。同様に「ファイル」→「履歴の読み込み…」で保存したコマンドを呼び出せる(以前のコマンドを表示するには ↑、↓などの矢印キーを押す)